

社会福祉法人狛江市社会福祉協議会
平成 28 年度第 2 回地域福祉活動計画策定委員会会議録

1 日時

平成 28 年 8 月 16 日（火）13:30～15:30

2 場所

あいとぴあセンター 地域福祉推進室

3 出席者（敬称略、名簿順）

委員：小野 敏明、中村 美安子、市川 衛、森井 道子
大矢 美枝子、大久保 幸藏、小野 芳明、松村 正俊
三角 悦一、松村 雪子、岡本 起恵子、小川 正美
小林 万佐也、竹中 石根（14 人）
事務局：小楠 寿和、高橋 宗孝、大山 寛人、大塚 隆人

4 欠席者（敬称略、名簿順）

委員：長谷川 まゆみ

5 議題

- 1 地域福祉活動計画策定に向けた調査方法について
- 2 その他

—配布資料—

- ・平成 28 年度第 2 回地域福祉活動計画策定委員会次第
- ・地域福祉活動計画策定に向けた調査方法（案）
- ・懇談会について（案）
- ・アンケートについて（案）
- ・狛江市の調査方法について（予定）
- ・地域福祉活動計画説明資料

6 会議の結果

1 地域福祉活動計画についての再説明

議題にはないが、前回の説明では不十分であったため、再説明を行うこととなった。

(委員長)

前回の会議でいろいろな意見をいただきました。これから社協の地域福祉活動計画を作成していくうえで共通理解をもったほうが良いので事務局からあらためて説明をしてもらいます。

(事務局)

<配布資料の確認>

<地域福祉活動計画説明資料について説明>

(委員長)

質問、意見はありますか。

(委員)

福祉活動と一般的な活動の違いは何ですか。この計画に載せる範囲とそうでない範囲、福祉の定義は何ですか。高齢者が行えば、それは福祉といえば福祉ですが、アンケート取ったらいろいろな意見が出ると思います。ここで担う困りごととそうでない困りごとに違いはありますか。この計画でやらなければならないのは福祉課題であることは確かですが、どこまで反映すべきなのかがわかりません。

(事務局)

ここで挙げているのは市民活動の例であって、幅広く地域の方が参加している活動の例です。

(委員長)

災害に関していえば、災害時の対応は行政の地域福祉計画に入れなければなりません。災害が起きたとき、災害ボランティアセンターを立ち上げなければなりません。災害と福祉は大事です。

(委員)

大事であり、市としてやらなければならないのは分かりますが、健常者向けの計画しか策定されていません。支援が必要な方の計画と実施でなければなりません。市全体の計画では、災害ボランティアセンターは社協がやることになっていますが、ボランティアセンターが別の場所に移りはっきりしていません。社協は災害ボランティアセンターを立ち上げなくていいのでしょうか。やるべき仕事と、やらなくてもいい仕事の区分がはっきりと分かれば、まとめやすいのではないのでしょうか。

(委員長)

社協としてはいかに市民の福祉を豊かにしていくかです。7ページにあるのはあくまでも市民活動の例です。

(委員)

社協の使命は、まず福祉から全うする、ということですね。

(委員)

子どもや青少年の分野には、子どもたちの貧困の問題があります。ひとり親家庭の子どもたちを対象としたスポーツは立派な福祉活動です。今後、地域の課題が出てきて、アンケートを取って、決めて行けばよいのではないのでしょうか。

(委員)

いろいろと課題が出て、予算も決まっています。ひとり親であれば福祉になり、両親がいれば福祉にならない、ということでしょうか。部活の先生の負担を減らすことは、福祉活動とは違うことだと思っています。他者からの支援を必要としている子どもであれば、福祉という側面もあります。少しでも福祉が関係していれば対象になるということでしょうか。

(委員)

福祉と福祉でないことの境目はありません。予算は別途考えればよいのではないのでしょうか。今後社協が進めていくのは、これからの福祉の機運を高めていくことです。

(委員長)

9ページに基本目標、重点課題を設定する、と書かれています。この場で意見をいただき、設定していきます。

(委員)

市のイベントなど、地域には協力依頼が全部下りてきます。町会では、高齢世帯とそうでない世帯に分けてアンケートを実施しています。若い人には「何かできることは」「見守る気持ちはあるか」などを聞いて認識してもらいます。社協の近くに住んでいても、社協のことがわからない人はたくさんいます。福祉を拡げるといふことは、気持ちのある人に対してでないといふと拡げられません。今年、地域の中で社協会員を16名増やしました。社協の人が回ったらもっと集まるのではと思います。どうしたら福祉的な機運を高められるのか答えをもらいたいです。気持ちのある人がどのくらいいるのかわからず、どうしたら宣伝できるのかがずっと課題です。

(委員)

社協は、地域の中で福祉の気持ちがある人がどのくらいいるのかわからない、という声を肝に銘じてください。

(委員長)

この後の議題は計画策定に向けた調査です。地域の課題にどのような人材が必要なのか、どのような方法で人材を発掘するのか、委員会で考えていきます。

(委員)

今日、この資料で説明していただけて良かったです。

(委員)

懇談会では、どういうことが課題、必要な対応なのかを出していません。集まってきたやってくれる人は、時間がある人や生計を立てられている人、地域の中で知

られている人であり、こちらから探していかなければなりません。そうでない人が、不特定多数の人に社協会員の募集に伺っても会員を集められません。集まってきた人でやるとなればやりやすいので、そういう人をこちらから探すことです。

(副委員長)

どこにどのような問題があるのか、その問題を解決するには、どういったアプローチをしていくのが重要です。災害時に避難所を運営するのは、行政ではなく住民です。昨年避難所運営委員会が立ち上がりました。地域にはいろいろな組織があるので役割分担をしていくのですが、訓練すると「ああすればよかった」「これをすればよかった」と意見が出てきます。避難所の話だけではなく、どう人材を探していくのか、ということです。

(委員)

分かりやすい説明資料です。7ページの「何を担ってもらっていくのか」に関して、地域福祉では排除しないことが大事です。地域福祉の範囲は放っておいても広がりますので「見逃しやすい地域課題」という表現にしておくのではないのでしょうか。1ページの地域福祉計画の説明中に「多くの住民から出された課題に対して」と書いてあります。間違いではないのですが、例えばひとり暮らしの人の、一部の人が気づいている、深刻になる手前の声で、地域にある生活課題、というイメージです。また、2ページ目で、地域福祉計画を実行するための計画が地域福祉活動計画であるような記述がありますが、これだとまず地域福祉計画があり、それをすべて地域福祉活動計画が担うという「下請け」のように見えてしまいます。

(委員)

アンケートを取ると進め方が楽になりますが、ひとりひとりが出した声は、解決しなければならぬのでしょうか。まとめられるのでしょうか。まとめる能力が必要です。

2 地域福祉活動計画策定に向けた調査方法について

(委員長)

ひとりの人の問題が本当にその人だけの問題なのか、住民に返していき課題を共有しながら支援のネットワークを作っていくことが大事です。調査方法について説明してください。

(事務局)

<地域福祉活動計画策定に向けた調査方法（案）について説明>

(委員長)

調査方法について説明がありました。意見はありますか。

(委員)

懇談会について、地域における課題、というテーマの出し方ですが、自分が参加

することを考えたときに、常に地域のことを考えている人でないと分からないのかもしれませんが。「困りごと」とかではだめなのでしょうか。

(委員)

「課題」も「困りごと」も同じです。

(委員)

「課題」は調べる側の言い方です。困っている人にとっては「解決してもらいたいこと」「こういう風にならいいな」ということです。

(委員長)

他の地域でやっていることですが、会場に入ってもらい、まず 30 分間高齢者や障がい者、子どものことなどを紙に書いてもらいます。

(事務局)

困りごとを書いてもらう前に、統計上の資料、地域カルテを示します。

(委員)

単純に「困りごと」「いま不満に思っていること」を聞くと個々のことが出てきてしまいます。町会で「どんなことをしてもらいたいか」と聞いたら、いっぱい出ました。最後に「やってもらえるのか？」となってしまうましたが、町会では対応できないことばかりでした。できないことを聞いても仕方ありません。解決できたことがほとんどありません。ただ単純に「何か」と聞いても、個人的なことが出てきます。身の上相談になってしまいます。

(委員)

去年はどれだけできた、という実績がないとフラストレーションがたまります。何時間かけても、意味がつかめない気がします。

(委員)

懇談会には毎回人が集まりません。今回は集まるのでしょうか。町会では、総会の前にアンケートを取ってすべてに答えています。それぞれの地域で課題は全く異なります。懇談会では、どういう風に「できました」と次の年度で評価できるようにしたいです。市民と市民が一緒にやるのであれば、賛成です。

(委員長)

地域の組織に働きかけないと、参加者は出ません。町会だけでなく、参加呼びかけ団体を列挙して働きかけることです。

(委員)

すでに組織化しているところに出向いて行くといいのではないのでしょうか。やる前に「私たちはこういう問題を問題として認識しているが、皆さんどう思いますか」と投げかけないと「何をやってたのだ」と言われてしまいます。「皆さんの視点から見たらどうですか」と出したほうが言いやすい。困りごとはそれぞれで違います。こちらが認識している課題を出して、みなさんから意見を聞く、そういう発想でできないのでしょうか。

(委員)

懇談会は地域ごとに分かれています、中には地域では言いたくない、言いにくいという人もいます。分かると嫌だという人もいます。言いやすい環境を作ることも大事です。

(委員長)

今までの意見を踏まえ、市との共催で実施するので、調整していただきます。福祉懇談会ですが、保育園、学童保育などの専門職が入らないと子どもの問題が見えてきません。

(委員)

分野別でなければいけないのでしょうか。子どもの育ちについては、生活保護ワーカーにも入ってもらえばいいのではないのでしょうか。混成部隊で幅広く。

(委員)

専門の方から話を聞くということが理解できません。課題は組織を通じて上にあがってこないのでしょうか。上司は、何が問題で、何が起きているのか、部下の業務を掌握できていないのでしょうか。

(委員長)

支援をしているけれども、制度上、対応できるサービスがない、持っていきどころがないということです。

(委員)

公のサービスに持っていきようがないから、いま話し合っているのではないのでしょうか。

(委員)

専門職で仕事をしている人たちが、今の制度では対応できずに困っていることを把握していないのでしょうか。部下が抱えている課題をひとりひとりに聞かなければならないのでしょうか。

(委員)

専門職が作成する記録を見ているのですが、例えば猫の問題、植木の問題など、どうにも対応できないことがたくさん記録されています。実は何かを抱えているから、そのような猫の問題や植木の問題が起きているのです。それは実際に現場に行ってみないとわかりません。皆さんは、出された意見がまとまらないといいますが、まとめる必要はありません。全ての課題を把握しているか、と言われれば、それなりには言えますが、専門職一人一人が生声をぶつけ合うことに意味があるのでしょうか。

(委員長)

介護保険事業所には管理者が一人いるだけで、高齢者のお宅へヘルパーを派遣していても、そのお宅にひきこもりの子がいるかどうか、実態把握はできていません。

(事務局)

調査をすることが趣旨ではありますが、事業所で同じような課題を感じているのかどうか、互いの立ち位置をまとめることも狙いとしています。

(委員長)

学生懇談会では、高校生をどのように把握するのでしょうか。

(事務局)

市内には狛江高校しかありません。

(委員)

市外の高校に通学している子がいるので、対象を狛江高校だけにしないでいただきたい。

(委員長)

懇談会のポスターを駅に貼り出せませんか。

(事務局)

可能です。

(委員)

「わっこ」は一般の人も見えています。

(委員)

町会掲示版に貼るのであれば、遠くから見てもわかるようにしていただきたい。能書きばかり書いてあるものは見てもらえません。

(委員)

何年度卒業の同窓会などを対象にするといいのではないのでしょうか。それを見て仲間と会えるかもしれないと思ってもらえるかもしれません。あまりにも一般的だと、他人事になってしまいます。

(委員)

大勢来なくてもいいと思いますが、この内容で来るかどうかです。

(委員)

人を集めることは大変なことです。その組織がどれだけ努力したかが大事で、結果は問いませんし、とやかく言うつもりはありません。

(委員長)

高校生自身にポスターを作ってもらったらいかがでしょうか。

(委員)

航空計器跡地にできたマンションの管理組合は、若い人が多いです。何かイベントするときの参加率が高く、そういう年代がいるところに声をかけたらどうでしょうか

(委員)

目安となる学生の集団はありますか。

(事務局)

狛江高校の赤十字クラブの部員や、実習生を受け入れている福祉系大学の学生、

市民活動支援センターでこれまでボランティアに関わった人たちなどに積極的に声をかけたいと思います。

(委員)

明治大学など近隣の大学に掲示をお願いしてはいかがでしょうか。

(副委員長)

「子ども教室えるぶ」には学生ボランティアが多いので、協力の一環としてお願いしてみてもどうでしょうか。

(委員)

今の子どもたちは、やりたいと思っても飛び出せない子が多いです。電話をして「知り合いにも声をかけて一緒に来て」と言ってあげるといいかもしれません。

(委員)

フードバンク狛江には、多くの大学生が参加して頑張っています。

(委員)

重要な地域福祉活動計画に多くの市民が参加してくれることが大事です。このメンバーで、関心のない人を巻き込んでいくことで、より意味のあるものになっていくのではないのでしょうか。

(委員)

丁寧に進めていただきたいです。避難所訓練は町会に入っている人入っていない人すべての人にチラシを配って声をかけます。全てのアパートにポスティングをして町会に入っていない人もお知らせをします。いつも同じ人が集まって話をしても意味がありません。

(委員)

どう自分に課題が結びついているのか見せないと、参加しないのではないのでしょうか。

(委員長)

狛江にはミニコミ誌、タウン誌はありますか。

(委員)

「わっこ」があります。

(副委員長)

興味のある人が、興味のあるところしか見ません。

(委員)

答えた人が何を得られるのか、という発想を持つべきです。

(委員)

何かひとつ成果を出しましょう。

(委員)

色々な情報や困りごと、課題はたくさんあがっています。たくさんあがっても、つなげるところが無いのが狛江の課題です。学生懇談会に期待しますが、専門職懇

談会はたくさん意見が出てくると思います。今まではそれを受け止めて形にしていくことがありませんでしたので、社協の取組として期待します。自分もやらなければなりません。

(副委員長)

学生や地域住民に只出てきてもらっても、意見は何も出てこないのではないのでしょうか。参加者に「あなたたちの身近な問題はなんですか」質問してはどうでしょうか。

(委員長)

他の地域の例ですが、把握している地域の問題、課題をある程度提示するとやりやすいです。懇談会をやる時の資料をどう作るか、ということです。他に意見はありますか。

(事務局)

アンケートに関しても意見をください。

(委員長)

ボランティア向けのアンケートですが、何か意見はありますか。

(委員)

どのように 100 名を選ぶのですか。

(事務局)

市民活動支援センターで把握している人、小地域福祉活動関係者、笑顔サービス協力委員などから抽出します。また、質問項目数が多いと回答率が下がると聞いています。多くても 5 つ程度の質問になります。

(委員)

コンサルタントは関わっているのですか。

(事務局)

メールで内容を相談しています。

(事務局)

コンサルタントには、狛江市の地域福祉計画をよく見てもらってください。課題が見えてくるかもしれませんが、それをどうするのか、ということです。

(委員)

ボランティアセンターで昨年度 200 名に対してアンケートを実施しました。その内容や結果も踏まえてください。

(事務局)

ボランティアセンターで実施したアンケートは高齢者向けでしたので、全て重なるものではありませんが、コンサルタントと調整します。

3 その他

<次回日程：10月17日（月）13時30分～>